

# みなとしみず

国土交通省中部地方整備局  
清水港湾事務所  
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所  
静岡市清水区日の出町7番2号  
TEL. 054-352-4146 (代表)  
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

## ～CONTENTS～

- ・年頭の挨拶
- ・新興津防波堤灯台製作見学会
- ・清水港・御前崎港 みなと見学会
- ・みなとオアシスの紹介(ミズベリングかのがわと連携)
- ・地域防災訓練に参加しました～地域の安全・安心を守ります～
- ・シリーズ「クルーズ船プロフィール」④(全5回)
- ・シリーズ「徳川家康と清水港」④(全4回)

## 年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。

年初の「みなとしみず」発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年も、県内において当事務所が実施しております港湾整備・振興活動に関して、様々な場面でご理解・ご協力賜りましたことにあらためて感謝申し上げます。

お陰様で、清水港、御前崎港、田子の浦港、下田港の各港での事業を順調に進めることができました。また、先人達が大切に築きあげてきた港湾ストックが大いに活用され、RORO 船による新たな航路の誘致、大型外航客船の受入、港の賑わい創出といったみなとを「賢く使う」取り組みも各所で精力的に行われました。今年も、「さる年」ですので、更に「賢く」各地域の特色を活かして港湾が利用されることを大いに期待したいと思います。

当事務所としましても、引き続き、津々浦々の港とまちが活力に溢れ、力強く日本経済が再生されるよう、次世代に継承されるに相応しい港湾ストックの機能強化・生産性向上に微力ながら努めて参ります。

また、大規模地震・津波対策等の産業活動や生活の安全・安心を支える港湾の基盤整備やソフト対策についても、関係機関とより一層の連携に努めながら着実にその取組を進めて参ります。

以上に述べた取組を実施するにあたり、地域の皆様との信頼関係のもとで各方面のご協力を頂きながらより高い効果が得られるように進めて行きたいと考えております。

本年も、職員一丸となって取り組んで参りますので、より一層のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

清水港湾事務所長 加賀谷 俊和



## 新興津防波堤灯台製作見学会

清水港新興津国際海上コンテナターミナルは、平成 25 年 5 月に第 2 岸壁が供用され、大型コンテナ船の 2 隻同時着岸可能となり、物流利便性が向上したことで、「コンテナ積み替え実績の増加や新たな関連施設の整備・運用」「岸壁空き待ちの滞船解消」など、コンテナ物流の効率化が進んでいます。

当事務所では、更なる利便性の向上と安全な荷役機能を確保するため、当該岸壁前面水域の静穏性を保つ新興津防波堤の整備促進を図ってきました。その防波堤が、平成 28 年 3 月に完成を迎えます。

現在、その防波堤先端に設置する灯台を清水港内で製作しています。普段、沖合の防波堤上の灯台は陸上から遠く眺めるだけの構造物ですが、今回は、港内の製作場所でその大きさや構造・外観が間近で見られる貴重な機会が得られました。この貴重な機会に『今しか間近で見られない灯台』の見学会を地域の方を対象に 1 月 9 日(土)に開催しました。

当日は、37 名の方が見学会に参加し、高さ約 9m、全面白色タイル張りの美しい灯台を見学し、「灯台の中に入ったり登ったりするのは初めてでいい経験ができた」「海の安全を守る灯台を近くでみれて良かった」など参加者は、興味深く観察していました。貴重な機会を活かし、みなとに対する興味や理解が深まる見学会となりました。



## 清水港・御前崎港 みなと見学会

11月5日(木)に、伊豆の国市立葦山中学校2年生(66名)、11月6日(金)に、裾野市立須山小学校5年生(25名)が社会学習のため清水港を見学しました。

両校とも港湾業務艇に乗船し、国際コンテナターミナルの荷役、整備中の防波堤等を見ながら当事務所職員から清水港の特徴、港の果たす役割などの説明を受けました。

その後、清水コンテナターミナル(株)や八洲水産(株)のご協力を得て、コンテナターミナルの見学・冷凍マグロ倉庫の見学に加え、清水港の水産業や、コンテナターミナルの諸施設について説明を受けました。

生徒からは、「日本で消費されるマグロの約半分が清水港で水揚げされていることを初めて知った」、「-70度の冷凍倉庫はとても寒かった」、「美港にふさわしい清水港の景色を実感できた」などの多くの感想を聞くことができました。

また、11月27日(金)には、御前崎市シニアスクール(27名)が御前崎港の見学に訪れました。参加者は3班に別れ、御前崎港の概要説明、港内見学を交互に実施、御前崎港について学習しました。港内見学では、当所の港湾業務艇に乗船し、港湾施設(防波堤、岸壁)、荷役施設(ガントリークレーン等)を見ながら、当事務所職員から防波堤は、見える部分は極わずかで水面下に大きな構造物が構築されていること、ガントリークレーンの高さ・吊り上げ能力などの構造や機能の説明を受けました。

その後、戦時中～昭和30年代の御前崎港周辺の写真を見て、今ではほとんど見ることがない「カツオ釣り体操」など懐かしい写真に感動する姿が窺えました。

普段は見るのが難しい国際コンテナターミナルの荷役や防波堤等の整備状況などを見学することにより、港の重要性を理解して港をより身近に感じていただければと思っております。



## みなとオアシスの紹介(ミズベリングかのがわと連携)

11月23日(月・祝)に伊豆の国市でミズベリングかのがわ第2回会議が開催されました。ミズベリングとは、国土交通省水管理・国土保全局が進める、地域の方と共に水辺の未来を考える会議です。今回は、伊豆半島を流れる狩野川の水辺を利用した地域振興(地域をもっと楽しくする)の方向性を討議する場でした。狩野川の最下流域には、みなとオアシスとして地域振興に貢献する沼津港があります。当事務所では川と海が連携して地域振興の相乗効果を産み出すための方向性(ミズベリングとみなとオアシスの連携)を模索していくためこのイベントに参画し、みなとオアシスをパネル掲示などで紹介をしました。

当日のワークショップは、狩野川の中流域の伊豆の国市の水辺をフィールドにした議論が中心だったため、川と海や港との連携までの議論には至りませんでした。『海から川を経由して人や物を運ぶ手段(船・カヌー等)を組んだイベントがあったら楽しいかも』などの発言もあり、今後もミズベリングとみなとオアシスの連携に向けた情報交換と取組の継続は重要であると改めて認識しました。



## 地域防災訓練に参加しました

～地域の安全・安心を守ります～

静岡県では12月の第1日曜日を「地域防災の日」と定め、各地域の自主防災組織で防災訓練が行われています。

当事務所では、平成27年12月6日(日)、当所宿舎のある清水区駒越北町の訓練に参加しました。住民の方々約200人が参加され、津波避難ビルに指定されている当事務所宿舎への避難や炊き出し訓練などを行い、自分の命は自ら守り、互いに助け合う体制を確認しました。

当宿舎では、更に多くの方が避難できるよう、屋上までの階段の増設工事を予定しています。



《当所宿舎での訓練》



## シリーズ「クルーズ船プロフィール」④(全 5 回)

今回は、三菱重工長崎造船所で初の 10 万トン超のクルーズ船として建造されたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」について、ご紹介します。2000 年三菱重工は、プリンセスクルーズより 2 隻の 11 万トンクラスの大型クルーズ船を受注しました。1990 年に竣工した「クリスタル・ハーモニー」（現：飛鳥Ⅱ）以来約 10 年ぶりになる大型客船の受注であり、欧米のクルーズ会社がヨーロッパの造船所以外に客船を発注した初めてのケースでした。1 番船の引き渡しは 2003 年 7 月、2 番船は 2004 年 5 月に決まり、長崎造船所で建造は順調に進んで行きました。しかし、2002 年 10 月 1 日午後 5:15 頃、艀装中の 1 番船第 5 デッキ付近より出火した火災は、3 日午前 5 時 45 分に鎮火するまで、丸 1 日以上燃え続けました。密閉された船内での火災は、大変危険であり、クルーズ船では出港から 24 時間以内の避難訓練が義務付けられています。「コスタ・コンコルディア」座礁事故（2012 年）以来、クルーズの最初の港の出港前に避難訓練をする船が一般的になり、緊急警報を合図に乗客とクルーは全員参加で指定の避難場所に移動します。乗客は「エマージェンシーカード」や名前などで参加が確認される為、不参加者には船から後日の訓練参加が通達されます。

出火時に 1000 人ほどいた工員は全員無事に避難出来ましたが、船体はその約 4 割が火災による損傷を受けました。三菱重工は、被害の大きさに廃船も検討しましたが、機関部が無事だったため、損傷した部分を取り除き、再建する事で船主と交渉しました。当初より 1 番船を「ダイヤモンド・プリンセス」2 番船を「サファイア・プリンセス」として建造していましたが、両船を入れ替えて 2 番船を「ダイヤモンド・プリンセス」として繰り上げる事により、火災による大幅な納期の遅れを短縮する事で船主と合意に達しました。2 番船の納期は 1 年半後の 2004 年 5 月予定で進めていた工程を組み直し、さらに火災で損傷した 1 番船の損傷部分の撤去と再建するという、世界でも類を見ない 10 万トン超客船 2 隻平行建造に直面する事となりました。建造は困難を極めました。長崎造船所香焼工場は 24 時間 3 交代制、2 日間の正月休み以外無休のフル稼働により、2004 年 2 月「ダイヤモンド・プリンセス」が、同年 5 月損傷部分を撤去再建した「サファイア・プリンセス」が無事、引き渡されました。

完成した船体は、総トン数 115,875 トン、全長 290 メートル、全幅 37.5 メートル、水面よりの高さは 54 メートルです。ちなみに横浜港に架かる横浜ベイブリッジは海面より約 55 メートルなので、出入港時には乗客達が最上部付近に集まります。船体最上部と橋の最下部との差は 2 メートルほど。頭上すれすれに通過するベイブリッジの構造の巨大さを実感した人々からは大歓声が上がります。



「ダイヤモンド・プリンセス」には海洋汚染に敏感なアラスカ沖のクルーズに対応するようにクルーズ中の大気、海洋汚染を出来る限り抑えるシステムが搭載されています。ディーゼルエンジンと前回「セレブリティ・ミレニウム」でご紹介したガスタービンエンジンを併設し、大気汚染物質を軽減しています。また船内で出たゴミも廃棄物処理装置により海洋投棄を一切しないよう環境に配慮されています。船内には、外国籍のクルーズ船としては珍しい日本式の大浴場「泉の湯」を備えています。屋外

には露天風呂風の大型の円形ジャクジープールもあり、国籍・年齢を問わず乗客に人気の場所です。

3 層吹抜けのアトリウム「グランドプラザ」でウェルカムパーティの際に、高さ 2 メートル以上 10 数段積まれたピラミッド型のシャンパンガラスタワーが現れます。クライマックスでは上部から乗客たちが代わる代わるシャンパンを注いで行きます。揺れの少ない船だからこそ出来るイベント、正にメイドインジャパンの船体の優秀性を証明しているのではないのでしょうか。

次回は、「クイーンエリザベス」のプロフィールとなります。

※ このシリーズは県内で知る人が少ない「クルーズ船」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載 4 回目です。山口博史（やまぐちひろふみ）昭和 43 年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。2012 年より昨年末でクルーズ番組を撮影。取材では主にアジア・ヨーロッパなどでクルーズ船に乗船した。

## シリーズ「徳川家康と清水港」④(全 4 回)

## 7. 交通網の整備

徳川家康は大御所として駿府にもどって以来、駿府を中心とした町づくりに意を配っている。清水湊も駿府の外港として、城下の経済的発展と一体感をもって重視していた。

その政策の一つとして交通網の整備が挙げられる。慶長 6 年(1601)新たな東海道として 53 次の宿駅を定めたが、江尻宿が新たに宿駅に加えられた。江尻宿付近の道筋をみると、街道は直角に近いほどの急カーブをして大きく迂回している。清水湊に隣接している江尻宿をあえて宿駅にしようとする幕府の意図がうかがえる。

室町時代末期(戦国時代の末)、江尻の地域は、江尻湊、江尻・入江の三斎市、江尻城の城下町など商工業が急速に発達していた。

江戸時代になると、浜清水に廻船問屋が生まれ海上交易が盛んになり、清水湊、江尻宿は駿府の町づくりの一環として繁栄した。

駿府は人口 10 万人といわれる大消費地である。清水湊で陸揚げされた物資は水陸交通で駿府に運ばれた。

清水湊の開港と同時に、浜清水から東海道追分までの道路ができた。「志ミづ道」である。湊からの物資を牛や馬の背で運んだので地元では牛道、馬道と呼んだ。

追分の東海道との分岐点には「是より志ミづ道」と刻された道標が建ち、その一隅に街道名物追分羊かんを商う老舗があった。

久能道は駿河七観音の一寺久能寺を参詣する古道であったが、江戸初期、久能山東照宮が創建されると東照宮の参詣道となった。

この久能道は、清水湊からは清水湊道(清水み奈登道)で村松の本能寺角で接続しており、岡清水を通り、入江南小路で東海道に合流していた。

水上交通では、清水湊に陸揚げされた荷物は川舟に積みかえて巴川上流の上土<sup>あげつち</sup>まで運び、上土からは北街道で府中まで陸送されることもあった。

慶長 12 年(1607)、徳川家康の命によって京都の豪商角倉了以が富士川を開削し、岩淵河岸から甲斐の鰍沢・青柳・黒沢の三河岸を結ぶ舟運を開いた。

この舟運により、甲州廻米を江戸に送り(下り米)、甲州へは赤穂の塩をはじめ茶、魚などが運ばれたが、これらの物資の大半は蒲原湊から一旦清水湊に運ばれ、廻米は千石舟で江戸に送られたという。清水湊は駿府の外港としてだけでなく、甲信地方の外港的役割を果たしていた。徳川家康の清水湊への遠大な思い入れを知ることができるのである。



◀追分・東海道(手前)と志ミづ道(左奥)の分岐点に建つ道標▶

※ シリーズ「徳川家康と清水港」は杉山氏の寄稿によるもので、今回は連載最終回です。

杉山 満(すぎやま みつる) 昭和 11 年、静岡市清水区生まれ。日本考古学協会員。清水郷土史研究会顧問。

## 海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

## ■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村 Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

